

ご使用前に必ずお読み下さい。

1. 設置環境

直射日光や高温になる場所の設置は、避けて下さい。
腐食性ガスの発生や水滴がかかる場所でのご使用は、避けて下さい。
強い振動や衝撃の加わる場所での設置は、避けて下さい。

2. 設置方法

端子台への入線は、M4 ネジ用圧着端子にて確実に締め付けて下さい。
感電防止のために端子カバーは必ず取り付けてご使用下さい。
DIN レールでの取付はレールにカチッとめ込みを確認して下さい。
周囲環境が 40 以上で連ねて変換器を設置する場合には 5mm 以上空けて取り付けて下さい。(通風を良くします。)
装置をネジ取付で使用する場合は、付属の取付ブロックを差し込んで M4 ネジ 2 本で確実に取り付けて下さい。

3. 結線

測定用 VT 及び CT の二次側の片側は安全のため接地下さい。
出力信号の配線は、2 芯ツイストペアシールド線にて配線しノイズ等に対策して下さい。
アース端子は、安全上必ず接地して下さい。
本装置への入線ケーブルは、他のノイズの乗った電線と分離配線下さい。
電力、無効電力や力率変換器入力信号の結線は、相順や極性を結線図で確認して接続して下さい。

4. 出力信号について

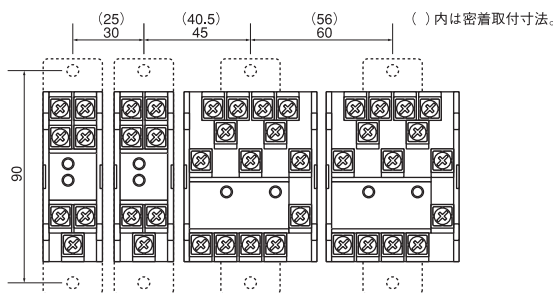
負荷抵抗は、600 以下で使用し容量性負荷は避けて下さい。
(DC4 ~ 20mA の場合)
過大負荷に対して(DC4 ~ 20mA 出力仕様の場合)出力信号は、最大 30mA 又は 18V 程度印加されます。

5. 補助電源について

本装置の電源装置は、スイッチング電源を採用しています。
補助電源は、十分余裕のある電源に接続下さい。(各変換器の消費 VA の合計 × 2 倍以上の電源容量を準備下さい。)
特に測定用 VT から電源をとる場合には、VT の VA に考慮して選定して下さい。例えば、電流又は電圧変換器 5 台の場合必要電源容量は、3VA × 5 台 × 2 倍 = 30VA
電源投入時突入電流が流れます。AC100V 電流の場合、1 台あたり約 300mA/5ms 程度流れます。外部にヒューズ又は NFB を電源ラインに接続する場合、遅延形の採用や遮断容量に注意して下さい。
内部には、電源遮断用のヒューズを取り付けています。

6. 取付ピッチ

装置を連なって使用する場合には、通風のために装置と装置の間隔を約 5mm 程度離して取り付ける様にして下さい。



7. メンテナンス

本製品はメンテナンスフリーですが、トラブル等で点検する場合は下記の要領にて行って下さい。
調整前の準備
・ゼロとスパン調整ボリュームは、装置前面に取り付けられています。
・ボリュームキャップを取り、小型のプラスドライバーで回します。
・電源投入後、15 分以上後に調整する。
・出力値を正確に読みとれる測定器を接続する。
・時計方向に回すと出力値が大きくなります。
・調整量は、約 ±3 ~ 5% 調整可能です。
ゼロ調整
・入力値をゼロにて出力値がゼロに相当する値になる様にゼロ調整ボリュームを回します。例えば、出力が DC4 ~ 20mA タイプの場合、4.00mA に調整します。
スパン調整
・定格値を入力し出力値を確認しスパン値になる様にスパン調整ボリュームを回します。例えば、出力が DC4 ~ 20mA タイプの場合、20.00mA に調整します。

8. 正常動作しない場合の点検

(出力が DC4 ~ 20mA タイプを想定)
出力が出ない(0mA)
・電源や出力端子ネジの緩みをチェックする。
・電源端子で電源電圧を回路テスタ等で確認する。
・一度補助電源を断りし再度 ON にし復旧するか確認する。
・内部のヒューズの断線(メーカへ返却して下さい)
出力が出ない(4mA)
・入力端子ネジの緩みをチェックする。
・入力値を別の測定器で確認する。
・出力ケーブルの + と - 電線がショートしていないかチェックする。
出力が正常値でない
・入力端子への配線を確認する。
・電力や力率変換器の場合には V.T や C.T の取り付け位置や極性を結線図で確認する。
・ゼロやスパン調整がずれている。
・過度のノイズや誘導電波等が印加されていないか確認する。
装置が周囲より異常に過熱(正常時温度上昇約 15)
・直ちに電源を切り使用しないでメーカへ返却して下さい。